

平成21年度 【 学園研究費助成金< B > 】研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ ヒグチ ケンイチロウ
氏名 樋口 謙一郎

研究期間 平成21年度

研究課題名 「人間の安全保障」における言語政策の可能性
——日本の国際協力政策をめぐる理論的・実務的検討を中心に——

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	樋口謙一郎	文化情報学部	講師
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

「人間の安全保障」は、環境破壊、人権侵害、貧困など、人間の生存や尊厳に対する脅威の解消を目指す理念である。この理念においては基礎教育、特に基本的な識字力の育成が重視されているが、その一方で、識字の次に来るべき言語教育、言語計画については従来十分に理論化されてこなかった。このような認識から、本研究では、日本の国際協力／開発援助における言語政策上の課題を中心に考察する。具体的には、援助対象国・地域における言語教育・言語観の変容、言語コミュニティの変化と保全、母語・現地語の使用などの現状と課題、展望を、可能な限り明らかにする。

2. 研究方法等 (300字以内で記述)

国際協力と言語政策の関係にかかわる基礎資料の収集・分析を行い、「人間の安全保障」に言語政策がいかなる寄与を果たしうるのかという点について理論面、実務面の双方から検討する。また、文献調査のほか、研究者に対するヒアリングや意見交換を適宜行い、研究に現場感覚を吹き込むよう努める。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

研究期間中、「人間の安全保障」と言語政策との関連に関する資料収集を、国内各地およびロンドン大学東洋アフリカ学院 (SOAS) において行った。SOAS においては現地研究者の協力を得ることができた。この際、アフリカ諸国にみられる「手話コミュニティ」や、いわゆる「危機言語」と言語選択の問題など、近年、注目度が高まっている研究領域についても一定の知見を得ることができた。

日本および諸外国の国際協力／開発援助プロセスにおける媒介言語や言語教育の位置づけ、援助対象国の言語政策 (危機言語への対処や手話コミュニティの形成などを含む) をめぐって生じる諸問題の発生要因および言語文化的背景の考察を行った。近い将来、この成果を公表するとともに、有意義な政策立案・運用に向けた提言を行うべく努めたい。

本研究の実施に際し、言語政策や国際協力を専攻するさまざまな研究者との討論、問題意識の共有を行うことができた。目下、有志の研究者数人とともに、共同研究の準備を進めているところである。また、研究成果を教育に還元・展開すべく、文化情報学部の授業 (「言語文化論」「地域文化論」「アジア文化交流論」など) で関連テーマを扱いたい。現在、そのためのテキスト (参考教材) 作成を進めており、来年度以降、各授業において順次使用していく予定である。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

① 言語政策	② 人間の安全保障	③ 国際協力	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

本研究の成果は来年度公刊の予定である。

また、この成果を基礎として、近く内外の研究者との共同研究を組織することを予定している。これについては、科研費取得などにより研究の深化・発展を目指したい。